



ホーム

私たちの「紛争ダイヤモンドを永遠になくそう(Blood Diamonds are For Never)」キャンペーンが展開される中、One Sky (One Sky-The Canadian Institute for Sustainable Living) やキャンペーン参加者は、キンバリー・プロセス(Kimberley Process)を強化することにより、紛争ダイヤモンドの取引に終止符を打とうと、日夜努力を重ねてきました。2003年にキンバリー・プロセス認証制度(KPCS: Kimberley Process Certification Scheme)が発足され、特にシエラレオネでは大きな進歩が見られました。同国では、この認証制度が採択される前はダイヤモンドの輸出に関する記録はほとんど存在しませんでした。2005年には1億4200万ドルとして報告されています。

[Partnership Africa Canada's recent review of the Kimberley Process](#) からも抜け穴があることは明らかであり、紛争ダイヤモンド取引が二度と行われないように、各国政府がさらに前向きに取り組むことが求められています。そして、問題は依然として残っています・・・

あなたのダイヤモンドは、クリーンですか？

2003年11月に、One Sky とシエラレオネ保全協会(CSSL: Conservation Society of Sierra Leone)は、紛争で引き裂かれたシエラレオネ東部に向かい、コノにあるダイヤモンド採掘の中心地を訪れました。この地でダイヤモンドが残忍かつ悪質な内戦の焦点となり、その結果、リベリアの悪名高いチャールズ・テイラーが軍備や融資を行った反乱軍「革命統一戦線」によって、強制的な手足の切断や人権抑圧が行われたり、シエラレオネの村人の大半が住む場所を失ったのです。

当地では、採掘労働者(その大半が子供たち)がダイヤモンドを求めて川岸の谷床を掘り起こした際に沖積層のダイヤモンド



green diamonds

が無差別に採掘されたため、すっかり荒廃していました。結果として、多くの豊かな農耕地土壌と農地が採掘の残骸へと化してしまっただけです。今日、この地には、何万ものこぼこした採掘穴やひっくり返された土壌、そして淀んで蚊の群がる水溜りといった採掘の傷跡が残るばかりです。現在、農地として唯一活用できるのは、薪や炭の生産のために搾取された近くの森林のみです。これらの採取穴を元の状態に戻さなければならないという法規制は、全く存在しません。地元の大酋長の言葉を借りれば、ダイヤモンドの発見は「祝福ではなく呪い」であったのです。

現在、One Sky は CSSL と連携して、荒廃した土地を改善させていくことに取り組んでいます。私たちは、在来種を栽培するためのプランテーションの開発、小川の修復、および農耕地の開墾を行うことにより、コノの沖積層のダイヤモンド採掘現場を元の状態に戻すための協定を結ぶための準備を、地元の役職者や大酋長と進めています。皆様も、クリーンで「グリーンな（環境に優しい）」ダイヤモンド取引が行われるよう、シエラレオネのダイヤモンド採掘地の復元や、新たな開発、そして地元の貧困な人々への代替となる生活手段の提供のためにご支援ください。



翻訳者 DeLingo